

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No271

G.ビースタの教育論1 「教えること (teaching) の再発見」

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

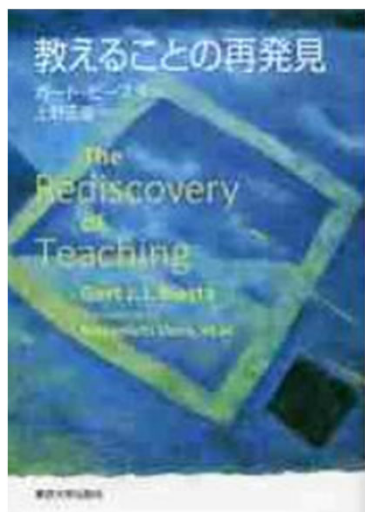
<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

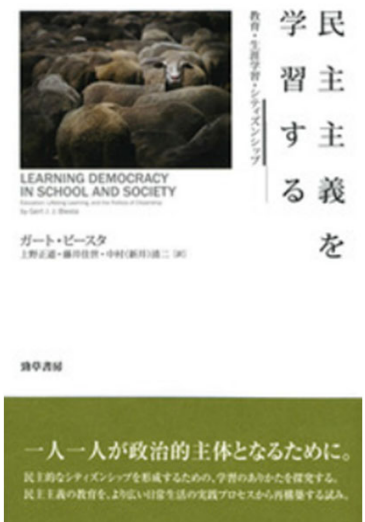
※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



ビースタ, G. (著) 上野正道 (監訳) (2018). 教えることの再発見
東京大学出版会

- プロローグ 教えることの再発見の必要性
- 第1章 教育の課題とは何か
- 第2章 教えることを学習から自由にする
- 第3章 教えることの再発見
- 第4章 無知な教師に惑わされないで
- 第5章 不可能なことを求める
- エピローグ 教育に教えることを取り戻す

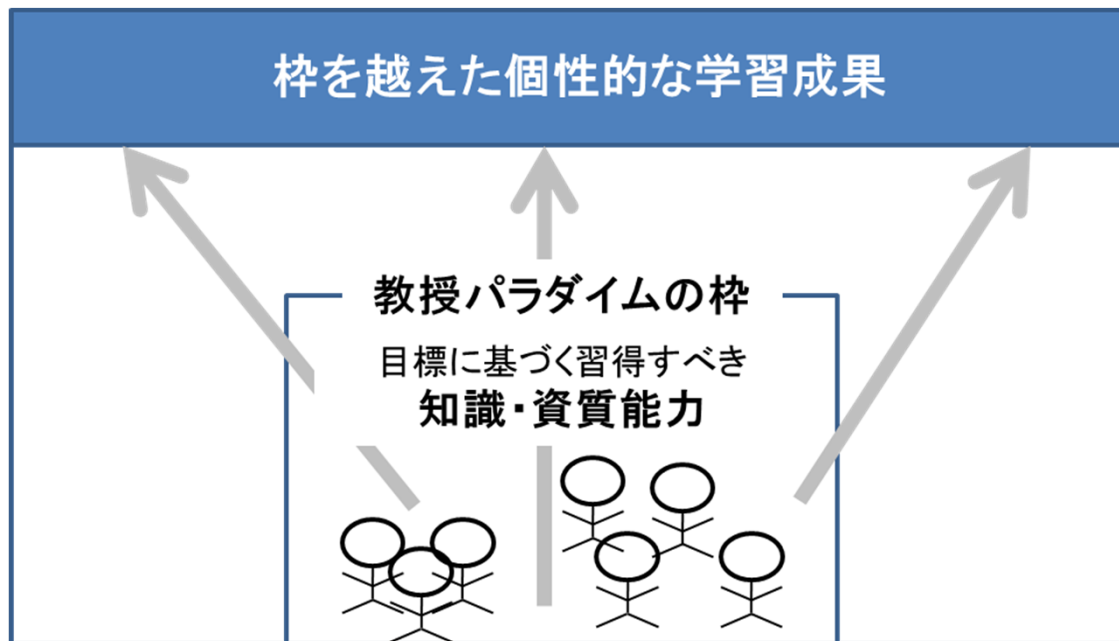


(Upcoming Soon!)
ビースタ, G. (著) 上野正道・藤井佳世・中村(新井)清二(訳)
(2014). 民主主義を学習する—教育・生涯学習・シティズン
シップ— 勁草書房

教授パラダイムから学習パラダイムへの転換

学習パラダイム

政府の施策との関連



○ 学士課程答申（2008年）、平成28年答申（学習指導要領改訂）（2016年）
「何を教えるか」だけでなく
「何ができるようになるか」も

○ [高等教育] グランドデザイン答申（2018年）
「何を教えたか」から
「何を学び、身に付けることができるのか」への転換



ビースターにとって「主体性」とは

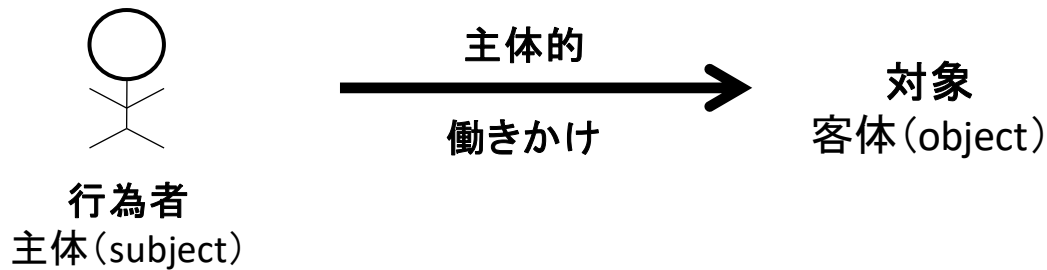
subjectivity

「主体から視点を転じて**存在すること**が主体にとってもつ意味を探究するものである・・・この答え方は、サルトルによる「存在は本質に先立つ」という言葉から示唆を得ている。」 (pp.16-17)

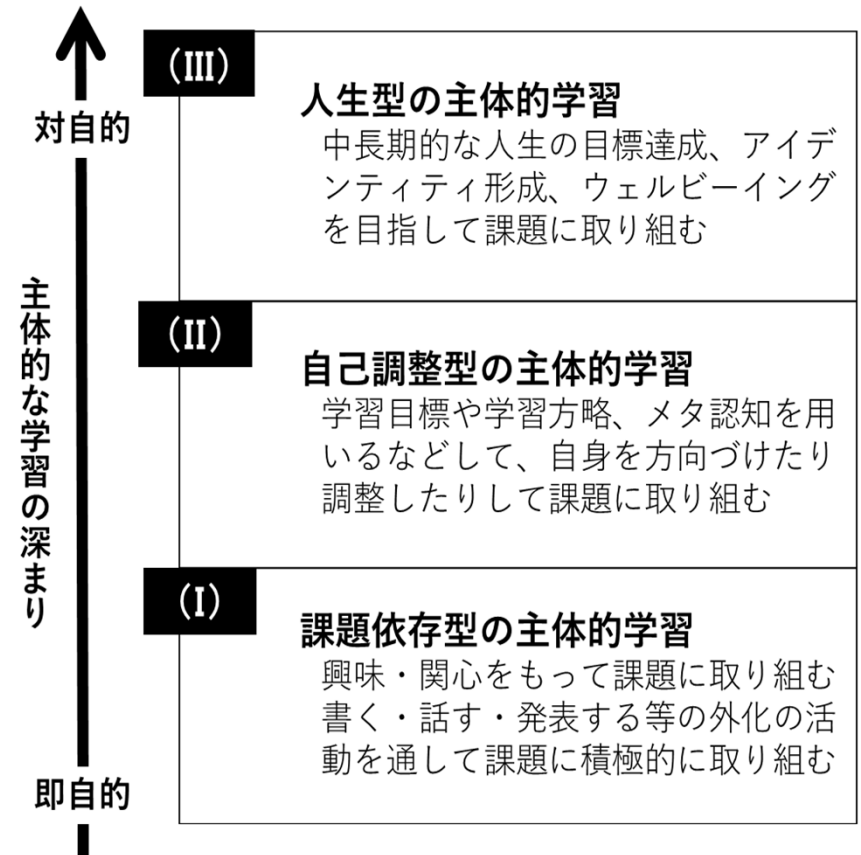
「主体として存在することは、自己とともにあること——自己と同一であること——を意味するのではなく、むしろ自己の「外部」にあることであり、**世界を志向して「外へ向かい」、世界のうちに「投げ出される」こと**なのである。」 (p.16)

主体的な学びとは

「行為者（主体）が対象（客体）にすすんで働きかけるさま」（『日本国語大辞典（第2版）』）



＜主体的な学び＞（新学習指導要領）
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次に繋げる学び。



・ 溝上慎一（2020）．社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー— 東信堂

ビースタは「成長」と「発達」を区別する

「「成長したということ」の用語について、・・・発達段階として扱うつもりもなければ、発達の軌道の結果として扱うつもりもない。そうではなく、实在論的な用語、つまりある特定の「質 (quality)」や存在する仕方といった用語を使って論じるつもりである」 (p.12)



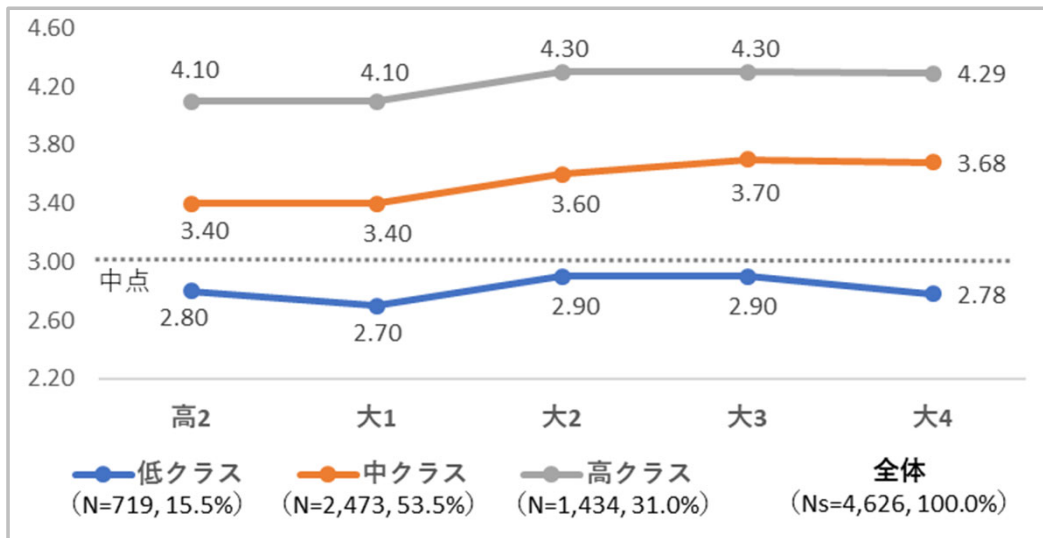
溝上慎一（責任編集）河合塾（編）（2023）. 高校・大学・社会 学びと成長のリアルー「学校と社会をつなぐ調査」10年の軌跡ー 学事出版（2023年10月29日）

目次

- 第1章 高校2年生は10年間でどのように変化・成長したのか
（溝上慎一）
- 第2章 社会階層と教育 ー生徒・学生の成長への影響を見る
（知念 渉）
- 第3章 社会人3年目インタビュー ー学びと成長のリアルに迫る
（溝上慎一）
- 第4章 社会的格差の視点から言えること（中村 高康）
- 第5章 大学教育の視点から言えること（濱中 淳子）
- 第6章 教育行政の視点から言えること（板倉 寛）
- 第7章 [特別対談] 真下 峯子×溝上 慎一 これからの学校教育を考える ー「学校と社会をつなぐ調査」を受けて

10年の調査を終えて ー理論的・実践的示唆と今後の課題

(問3) 高校生、大学生はもう発達的に仕上がっていて、成長しないのか？



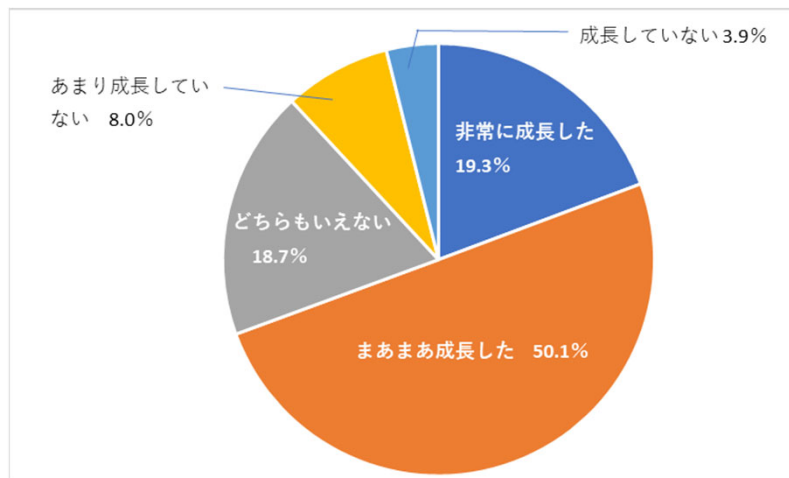
(回答)

• No

※高2～大4にかけて、各クラスのなかで傾きはプラスで有意であった（得点の上昇が有意に認められた）（『4時点目成果報告書』）

- 「発達」と「成長」を見分けることが重要！

Q「あなたは大学生になって以降、全体的にどの程度成長したと感じますか。」（大学3・4年生を対象）



①発達（development）

幼少期からの積み上げ的な心理的発達

②成長（growth）

- 生じること
- 単純から複雑へ進歩すること
- あるテーマをつくりあげること
- 開くこと
- より発展した状態へと移行すること

（Valsiner et al., 2003）

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

